

Asset
Management

償還日（2015年7月9日）		第25期	
償還価額	254.56円	騰落率	234.95%
純資産総額	34百万円	分配金合計	0円

（注）騰落率は収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

■本ファンドの仕組みは次のとおりです。

商品分類	追加型投信／海外／株式
信託期間	信託期間は2003年8月29日から2015年7月9日（繰上償還日）までです。
運用方針	本ファンドはファンド・オブ・ファンズ方式で運用を行います。 Ⅰ．第12計算期間まで ◇投資信託証券への投資を通じて、主として米国株式に投資し、個別銘柄のロング（買い）・ポジションと、ショート（売り）・ポジションを組み合わせるにより、付加価値の実現を図りつつ、同時に、米国株式市場全体の騰落からの影響を抑えるマーケット・ニュートラル戦略を行います。 ◇外貨建資産については100%為替円ヘッジを基本とします。 ◇1ヵ月円LIBORをベンチマークとします。 Ⅱ．第13計算期間以降 ◇投資信託証券への投資を通じて、主として米国株式に投資し、個別銘柄のロング（買い）・ポジションによる運用を行います。 ◇外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。
主要投資対象	
本ファンド	以下の投資信託証券を主要投資対象とします。 ・アイルランド籍外国投資信託（契約型） ゴールドマン・サックス 米国株式マーケット・ニュートラル・ファンド
投資信託証券	米国株式
運用方法・組入制限	①株式への直接投資は行いません。 ②投資信託証券以外の外貨建資産への直接投資は行いません。
分配方針	原則として毎計算期末（毎年1月および7月の特定日（約款第8条第1項に定義されます。））に収益の分配を行います。投信会社が経費控除後の配当等収益および売買損益（評価損益を含みます。）等の中から基準価額水準、市場動向等を勘案して分配金を決定します。

ゴールドマン・サックス
米国株式マーケット・
ニュートラル・ファンド

愛称：GS US ニュートラル

追加型投信／海外／株式

第25期（信託終了日2015年7月9日）

作成対象期間：2015年1月23日～2015年7月9日

受益者の皆様へ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。
さて、「ゴールドマン・サックス 米国株式マーケット・ニュートラル・ファンド（愛称 GS US ニュートラル）」は、リーマン・ブラザーズ・インターナショナル（ヨーロッパ）より最終の配当が行われ、本ファンドが主要投資対象とする外国投資信託の受益証券が換金可能となったため、信託約款の規定により2015年7月9日をもって償還いたしました。ここに謹んで運用経過と償還内容をご報告申し上げますとともに、受益者の皆様のご愛顧に対しまして、厚く御礼申し上げます。

ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント

〒106-6147 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー

お問合せ先：03-6437-6000（代表）

受付時間：営業日の午前9時～午後5時

www.gsam.co.jp

■設定以来の運用実績

決 算 期	基準価額 (分配落)	税 込 分 配 金	期 中 騰 落 率	ベンチマーク	期 中 騰 落 率	投資信託 証券比率	純 資 産 総 額
(設 定 日) 2003年 8 月29日	円 10,000	円 —	% —	10,000	% —	% —	百万円 3,649
1 期 (2004年 1 月22日)	10,164	0	1.6	10,002	0.02	99.4	6,024
2 期 (2004年 7 月22日)	10,094	100	0.3	10,004	0.02	98.9	5,868
3 期 (2005年 1 月20日)	9,930	0	△ 1.6	10,006	0.02	98.7	5,528
4 期 (2005年 7 月21日)	10,050	0	1.2	10,008	0.02	97.5	5,199
5 期 (2006年 1 月20日)	10,302	100	3.5	10,010	0.02	96.3	4,394
6 期 (2006年 7 月20日)	10,331	100	1.3	10,016	0.06	95.7	3,213
7 期 (2007年 1 月22日)	10,008	0	△ 3.1	10,036	0.21	98.3	2,688
8 期 (2007年 7 月20日)	9,355	0	△ 6.5	10,067	0.31	94.6	2,226
9 期 (2008年 1 月23日)	8,481	0	△ 9.3	10,106	0.39	94.4	1,676
10期 (2008年 7 月23日)	8,926	0	5.2	10,143	0.36	98.8	1,543
11期 (2009年 1 月22日)	8,587	0	△ 3.8	10,183	0.39	99.3	1,331
12期 (2009年 3 月26日)	773	7,850	0.4	10,190	0.08	97.5	106
13期 (2009年 7 月23日)	966	0	25.0	—	—	98.0	132
14期 (2010年 1 月21日)	1,069	0	10.7	—	—	98.2	146
15期 (2010年 7 月22日)	1,095	0	2.4	—	—	98.3	150
16期 (2011年 1 月20日)	1,297	0	18.4	—	—	98.6	178
17期 (2011年 7 月21日)	1,338	0	3.2	—	—	98.7	183
18期 (2012年 1 月20日)	1,081	0	△ 19.2	—	—	98.4	148
19期 (2012年 7 月20日)	1,128	0	4.3	—	—	98.5	154
20期 (2013年 1 月23日)	1,297	0	15.0	—	—	98.7	178
21期 (2013年 7 月22日)	1,501	0	15.7	—	—	98.9	206
22期 (2014年 1 月23日)	1,090	685	18.3	—	—	98.5	149
23期 (2014年 7 月23日)	70	1,090	6.4	—	—	75.0	9
24期 (2015年 1 月22日)	76	0	8.6	—	—	77.4	10
(償 還 日) 25期 (2015年 7 月 9 日)	(償還価額) 254.56		234.9	—	—	—	34

(注 1) 基準価額の騰落率は分配金込み。

(注 2) ベンチマーク (1 ヶ月円LIBOR) は、2003年 8 月29日を10,000として指数化しております。

(注 3) 本ファンドは、2009年 2 月20日付けで、運用方針や分配方針等の変更を含む約款変更を行い、第13期以降はベンチマークを設けておりません。また、約款変更後の運用方針等に照らして比較対象として適切と思われる指数等も存在しないため、参考指数等の掲載は行っておりません。

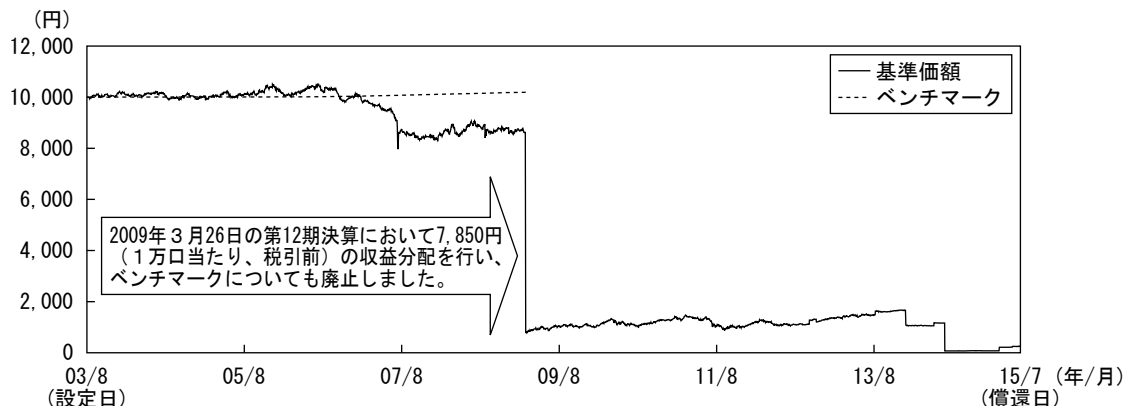
■当期中の基準価額と市況推移

年 月 日	基 準 価 額	騰 落 率	投 資 信 託 証 券 比 率
		%	
(期 首) 2015年 1 月22日	円 76	% —	% 77.4
1 月末	76	0.0	77.4
2 月末	77	1.3	77.4
3 月末	76	0.0	77.3
4 月末	214	181.6	91.9
5 月末	221	190.8	92.2
6 月末	245	222.4	93.0
(償 還 日) 2015年 7 月 9 日	(償還価額) 254.56	234.9	—

(注1) 騰落率は期首比です。

(注2) 本ファンドは、2009年2月20日付けで、運用方針や分配方針等の変更を含む約款変更を行い、第13期以降はベンチマークを設けておりません。また、約款変更後の運用方針等に照らして比較対象として適切と思われる指数等も存在しないため、参考指数等の掲載は行っておりません。

設定以来の基準価額等の推移について（2003年8月29日～2015年7月9日）



（注1）設定日から第12期決算日（2009年3月26日）までは、ベンチマークは1ヵ月円LIBORです。

（注2）本ファンドは、2009年2月20日付けで、運用方針や分配方針等の変更を含む約款変更を行い、約款変更後の運用方針等に照らして、本ファンドの値動きと比較する適切な指数が存在しないため、2009年3月27日以降はベンチマークおよび参考指数を設定していません。

（注3）ベンチマークは、設定日（2003年8月29日）の基準価額を起点として指数化しています。

前期までの運用状況（2003年8月29日～2015年1月22日）

【第1期】

（2003年8月29日～2004年1月22日 期末基準価額：10,164円 期中にお支払いした分配金：0円）

本ファンドは期を通じて「ゴールドマン・サックス 米国株式マーケット・ニュートラル・ファンド Aクラス」の組入比率を高位に保ちました。また、期を通じて為替予約による100%円ヘッジを継続し、為替相場の変動が当運用に与える影響を抑制しました。期初、マクロ的な視点から値上がり期待できる業種を選別する動きとなっていたため、同運用が魅力的と判断した買い持ち銘柄群と、同運用が魅力薄と判断した売り持ち銘柄群が共に上昇することとなり、同運用のパフォーマンスは横ばいとなりました。その後、次第に、ミクロ的な視点における個別銘柄の選別が進む展開となったことを受けて、魅力的な買い持ち銘柄群が堅調なパフォーマンスを示しました。一方、魅力薄な売り持ち銘柄群が軟調なパフォーマンスとなったことから、同運用のパフォーマンスは上昇基調となりました。結果、当期のパフォーマンス（分配金再投資ベース）は1.64%の上昇となり、ベンチマーク（0.02%の上昇）を1.62%上回りました。なお、第1期の米国株式市場は、S & P 500種株価指数で+13.48%と上昇する結果となりました。

【第2期】

（2004年1月23日～2004年7月22日 期末基準価額：10,094円 期中にお支払いした分配金：100円）

本ファンドは期を通じて「ゴールドマン・サックス 米国株式マーケット・ニュートラル・ファンド Aクラス」の組入比率を高位に保ちました。また、期を通じて為替予約による100%円ヘッジを継続し、

為替相場の変動が当運用に与える影響を抑制しました。ミクロ的な視点における個別銘柄の選別が進む市場展開となったことを受けて、魅力的な買い持ち銘柄群が相対的に堅調なパフォーマンスを示しました。一方、魅力薄な売り持ち銘柄群が相対的に軟調なパフォーマンスとなったことから、同運用のパフォーマンスは上昇基調となりました。特に、個別銘柄の収益性、利益の質、バリュエに着目した銘柄選択が奏功しました。結果、当期のパフォーマンス（分配金再投資ベース）は0.30%の上昇となり、ベンチマーク（0.02%の上昇）を0.28%上回りました。なお、第2期の米国株式市場は、S & P 500種株価指数で-4.12%と下落する結果となりました。

【第3期】

（2004年7月23日～2005年1月20日 期末基準価額：9,930円 期中にお支払いした分配金：0円）

本ファンドは期を通じて「ゴールドマン・サックス 米国株式マーケット・ニュートラル・ファンド Aクラス」の組入比率を高位に保ちました。また、期を通じて為替予約による100%円ヘッジを継続し、為替相場の変動が当運用に与える影響を抑制しました。米国株式市場が一進一退の展開となるなか、リターン予測モデルによる銘柄選別の効果が低く、同運用のパフォーマンスは軟調に推移しました。但し、下落幅はリスク管理の範囲内であり運用の巧拙を示す水準ではありません。その後、大統領選を境にして、萎縮していた投資家の心理が好転すると個別銘柄のファンダメンタルズが株価に反映される市場環境となり、同運用のパフォーマンスは堅調な推移へと移行しました。2004年12月に入り、株式市場で過度な期待が形成されるなかで再び同運用は軟調な推移となりました。結果、当期のパフォーマンス（分配金再投資ベース）は1.62%の下落となり、ベンチマーク（0.02%の上昇）を1.64%下回りました。なお、第3期の米国株式市場は、S & P 500種株価指数で+7.16%と上昇する結果となりました。

【第4期】

（2005年1月21日～2005年7月21日 期末基準価額：10,050円 期中にお支払いした分配金：0円）

本ファンドは期を通じて「ゴールドマン・サックス 米国株式マーケット・ニュートラル・ファンド Aクラス」の組入比率を高位に保ちました。また、期を通じて為替予約による100%円ヘッジを継続し、為替相場の変動が当運用に与える影響を抑制しました。弊社のリターン予測モデルによる銘柄選別の効果は得られたものの、銘柄固有要因からのマイナス効果もあり、同運用のパフォーマンスは若干の上昇にとどまりました。リターン予測モデルによる銘柄選別の効果のなかでは、特に「バリュエ」、「モメンタム」、「マネジメント・インパクト」、「利益の質」の指標の有効性が強く見受けられました。また、「収益性」、「アナリスト・センチメント」の指標からもプラス寄与が得られたことから、6つの指標の全てが有効に機能しました。結果、当期のパフォーマンス（分配金再投資ベース）は1.21%の上昇となり、ベンチマーク（0.02%の上昇）を1.19%上回りました。なお、第4期の米国株式市場は、S & P 500種株価指数で+4.39%と上昇する結果となりました。

【第5期】

（2005年7月22日～2006年1月20日 期末基準価額：10,302円 期中にお支払いした分配金：100円）

本ファンドは期を通じて「ゴールドマン・サックス 米国株式マーケット・ニュートラル・ファンド

Aクラス」の組入比率を高位に保ちました。また、期を通じて為替予約による100%円ヘッジを継続し、為替相場の変動が当運用に与える影響を抑制しました。弊社のリターン予測モデルによる銘柄選別の効果が得られたことから、同運用のパフォーマンスは堅調な推移となりました。リターン予測モデルによる銘柄選別の効果のなかでは、特に「モメンタム」、「利益の質」、「バリュー」、「マネジメント・インパクト」の指標の有効性が強く見受けられました。また、「収益性」、「アナリスト・センチメント」の指標からもプラス寄与が得られたことから、6つの指標の全てが有効に機能しました。結果、当期のパフォーマンス（分配金再投資ベース）は3.50%の上昇となり、ベンチマーク（0.02%の上昇）を3.48%上回りました。なお、第5期の米国株式市場は、S & P 500種株価指数で+2.81%と上昇する結果となりました。

【第6期】

（2006年1月21日～2006年7月20日 期末基準価額：10,331円 期中にお支払いした分配金：100円）

本ファンドは期を通じて「ゴールドマン・サックス 米国株式マーケット・ニュートラル・ファンド Aクラス」の組入比率を高位に保ちました。また、期を通じて為替予約による100%円ヘッジを継続し、為替相場の変動が当運用に与える影響を抑制しました。弊社のリターン予測モデルによる銘柄選別の効果が得られたことから、同運用のパフォーマンスは堅調な推移となりました。リターン予測モデルによる銘柄選別の効果のなかでは、「バリュー」や「モメンタム」、「マネジメント・インパクト」の指標の有効性が強く見受けられました。また、「収益性」や「アナリスト・センチメント」、「利益」の指標からもプラス寄与が得られたことから、全ての指標が有効に機能しました。結果、当期のパフォーマンス（分配金再投資ベース）は1.25%の上昇となり、ベンチマーク（0.06%の上昇）を1.20%上回りました。なお、第6期の米国株式市場は、S & P 500種株価指数で-0.98%と下落する結果となりました。

【第7期】

（2006年7月21日～2007年1月22日 期末基準価額：10,008円 期中にお支払いした分配金：0円）

本ファンドは期を通じて「ゴールドマン・サックス 米国株式マーケット・ニュートラル・ファンド Aクラス」の組入比率を高位に保ちました。また、期を通じて為替予約による100%円ヘッジを継続し、為替相場の変動が当運用に与える影響を抑制しました。弊社のリターン予測モデルによる銘柄選択による効果は期待に届かず、同運用のパフォーマンスは大きく下落するものとなりました。リターン予測モデルによる銘柄選択効果のなかでは、「バリュー」や「収益性」からはプラス寄与となったものの、「アナリスト・センチメント」、「モメンタム」の指標からマイナス寄与となったことから、銘柄選択の効果全体はほぼ中立的な水準に留まりました。さらに、米国経済のソフト・ランディングへの期待が膨らむなかで値上がりが続けた米国株式市場においては、個々の銘柄群の株価推移は必ずしも各企業のファンダメンタルズ（企業業績、財務状態など）を反映していたものとは限らず、そのような経済合理性では説明できないと思われる株価の値動きから、同運用ではマイナス寄与が生じたものと見られます。結果、当期のパフォーマンス（分配金再投資ベース）は3.13%の下落となり、ベンチマーク（0.21%の上昇）を3.33%下回りました。なお、第7期の米国株式市場は、S & P 500種株価指数で+13.92%と上昇する結果となりました。

【第8期】

(2007年1月23日～2007年7月20日 期末基準価額：9,355円 期中にお支払いした分配金：0円)

本ファンドは期を通じて「ゴールドマン・サックス 米国株式マーケット・ニュートラル・ファンド Aクラス」の組入比率を高位に保ちました。また、期を通じて為替予約による100%円ヘッジを継続し、為替相場の変動が当運用に与える影響を抑制しました。弊社のリターン予測モデルによる銘柄選択は奏功し、「モメンタム」、「収益性」および「アナリスト・センチメント」がプラス寄与となりました。しかしながら、ポートフォリオの構築に付随するものの、ファクターでは把握できない個別独自の動きである銘柄固有要因が大きくマイナス寄与となったことから、同運用のパフォーマンスは大きく下落しました。具体的には、世界的な業界再編による合併・買収(M&A)の活発化やその期待などを背景に、ファンダメンタルズが弱い銘柄が買い上げられるといった事例などが挙げられます。結果、当期のパフォーマンス(分配金再投資ベース)は6.52%の下落となり、ベンチマーク(0.31%の上昇)を6.83%下回りました。なお、第8期の米国株式市場は、S & P 500種株価指数で+7.81%と上昇する結果となりました。

【第9期】

(2007年7月21日～2008年1月23日 期末基準価額：8,481円 期中にお支払いした分配金：0円)

本ファンドは期を通じて「ゴールドマン・サックス 米国株式マーケット・ニュートラル・ファンド Aクラス」の組入比率を高位に保ちました。また、期を通じて為替予約による100%円ヘッジを継続し、為替相場の変動が当運用に与える影響を抑制しました。弊社のリターン予測モデルによる銘柄選択はマイナス寄与となりました。「アナリスト・センチメント」、「モメンタム」からプラス寄与が生じたものの、「バリュエ」、「利益の質」、「マネジメント・インパクト」などからのマイナス寄与が上回る結果となりました。さらに、ポートフォリオの構築に付随するものの、ファクターでは把握できない個別銘柄独自の動きである銘柄固有要因も大きくマイナス寄与となったことから、同運用のパフォーマンスは軟調となりました。サブプライムローン(信用力の低い借り手に対する住宅ローン)問題が(1)金融機関などの資金繰りに悪影響を与える信用収縮懸念、(2)実体経済の減速と景気後退懸念を引き起こし、市場が混乱し先行きに不透明感が生じるなかで、ファンダメンタルズが注目されず、需給関係や個別銘柄の材料に大きく反応する、経済合理性では説明できないと思われる株価の値動きが散見された市場環境であったことなどが、同運用の当期のパフォーマンス結果に影響を与えたと見えています。結果、当期のパフォーマンス(分配金再投資ベース)は9.34%の下落となり、ベンチマーク(0.39%の上昇)を9.73%下回りました。なお、第9期の米国株式市場は、S & P 500種株価指数で-12.74%と下落する結果となりました。

【第10期】

(2008年1月24日～2008年7月23日 期末基準価額：8,926円 期中にお支払いした分配金：0円)

本ファンドは期を通じて「ゴールドマン・サックス 米国株式マーケット・ニュートラル・ファンド Aクラス」の組入比率を高位に保ちました。また、期を通じて為替予約による100%円ヘッジを継続し、為替相場の変動が当運用に与える影響を抑制しました。弊社のリターン予測モデルによる銘柄選択はブ

ラス寄与となりました。6つの投資テーマのうち、特に「モメンタム」が大きくプラス寄与となったほか、「収益性」などがプラス寄与となりました。唯一「利益の質」がマイナス寄与となったものの、投資テーマ全体としては大きなプラスが生じました。その他、ポートフォリオの構築に付随するものの、ファクターでは把握できない個別銘柄独自の動きである銘柄固有要因はマイナス寄与となりましたが、投資テーマによるプラス寄与を主な要因として、当運用のパフォーマンスは堅調となりました。結果、当期のパフォーマンス（分配金再投資ベース）は5.25%の上昇となり、ベンチマーク（0.36%の上昇）を4.89%上回りました。なお、第10期の米国株式市場は、S & P 500種株価指数で-4.21%と下落する結果となりました。

【第11期】

（2008年7月24日～2009年1月22日 期末基準価額：8,587円 期中にお支払いした分配金：0円）

本ファンドは期を通じて「ゴールドマン・サックス 米国株式マーケット・ニュートラル・ファンド」の組入比率を高位に保ちました。また、期を通じて為替予約による100%円ヘッジを継続し、為替相場の変動が当運用に与える影響を抑制しました。弊社のリターン予測モデルによる銘柄選択はプラス寄与となりました。6つの評価基準のうち、「クオリティ」や「モメンタム」がプラス寄与となった他、「センチメント」などもプラス寄与となりました。一方で、「マネジメント」からはマイナス寄与となったものの、投資テーマ全体としてはプラスとなりました。その他、ポートフォリオの構築に付随するものの、ファクターでは把握できない個別銘柄独自の動きである銘柄固有要因はマイナス寄与となりましたが、投資テーマによるプラス寄与を主な要因として、同運用のパフォーマンスは堅調となりました。ただし、本ファンドのパフォーマンスは信託報酬、円ヘッジを行うためのヘッジコストなどその他の要因によりマイナスとなりました。世界的な景気後退懸念が強まるなかで、マクロ経済指標の悪化や、個別企業の業績悪化や信用格付けの引き下げなどが悪材料となり、市場は大幅に下落する環境下でしたが、世界の金融市場の混乱度合いは2008年3月頃をピークとして、徐々に落ち着きを取り戻しています。同時に、計量モデルによる銘柄選択の有効性は、米国、欧州、日本などの各市場において回復傾向をたどっており、特に米国における個別銘柄選択からプラス寄与が生じていることからその傾向が見て取れます。結果、当期のパフォーマンス（分配金再投資ベース）は3.80%の下落となり、ベンチマーク（0.39%の上昇）を4.19%下回りました。なお、第11期の米国株式市場は、S & P 500種株価指数で-35.46%と大幅に下落する結果となりました。

【第12期】

（2009年1月23日～2009年3月26日 期末基準価額：773円 期中にお支払いした分配金：7,850円）

本ファンドは期を通じて「ゴールドマン・サックス 米国株式マーケット・ニュートラル・ファンド」の組入比率を高位に保ちました。また、期を通じて為替予約による100%円ヘッジを継続し、為替相場の変動が当運用に与える影響を抑制しました。「バリュエーション」や「マネジメント」などからはマイナス寄与となったものの、「モメンタム」を中心に「クオリティ」や「センチメント」などがプラス寄与となったことで、投資テーマ全体としてはプラスとなりました。結果、当期のパフォーマンス（分配金再投資ベース）は0.42%の上昇となり、ベンチマーク（0.08%の上昇）を0.34%上回りました。なお、第

12期の米国株式市場は、S & P 500種株価指数で+0.65%と上昇する結果となりました。

本ファンドは2009年2月20日付で約款変更を行い、主要投資対象とする「ゴールドマン・サックス 米国株式マーケット・ニュートラル・ファンド」のうち流動性の低い資産を除く大部分につき現金化し、第12期決算日に収益分配金として受益者の皆様へ支払いしました。また、当該収益分配金の支払いに伴い、米国株式マーケット・ニュートラル戦略運用を終了し、主として米国株式の買い（ロング）・ポジションによる運用とするとともに、原則として外貨建資産についての為替ヘッジを中止し、ベンチマークを廃止しました。

【第13期】

(2009年3月27日～2009年7月23日 期末基準価額：966円 期中にお支払いした分配金：0円)

本ファンドは、第13期以降、米国株式マーケット・ニュートラル戦略運用を終了し、主として米国株式の買い（ロング）・ポジションによる運用を行い、外貨建資産については原則として為替ヘッジを行っていません。本ファンドは期を通じて「ゴールドマン・サックス 米国株式マーケット・ニュートラル・ファンド」の組入比率を高位に保ちました。結果、当期のパフォーマンス（分配金再投資ベース）は、24.97%の上昇となりました。なお、第13期の米国株式市場は、S & P 500種株価指数で+17.22%と上昇する結果となりました。為替市場では、米ドルは対円で前期末より下落しました。

【第14期】

(2009年7月24日～2010年1月21日 期末基準価額：1,069円 期中にお支払いした分配金：0円)

本ファンドは、主として米国株式の買い（ロング）・ポジションによる運用を行い、外貨建資産については原則として為替ヘッジを行っていません。本ファンドは期を通じて「ゴールドマン・サックス 米国株式マーケット・ニュートラル・ファンド」の組入比率を高位に保ちました。結果、当期のパフォーマンス（分配金再投資ベース）は、10.66%の上昇となりました。なお、第14期の米国株式市場は、S & P 500種株価指数で+14.36%と上昇する結果となりました。為替市場では、米ドルは対円で前期末より下落しました。

【第15期】

(2010年1月22日～2010年7月22日 期末基準価額：1,095円 期中にお支払いした分配金：0円)

本ファンドは、主として米国株式の買い（ロング）・ポジションによる運用を行い、外貨建資産については原則として為替ヘッジを行っていません。本ファンドは期を通じて「ゴールドマン・サックス 米国株式マーケット・ニュートラル・ファンド」の組入比率を高位に保ちました。結果、当期のパフォーマンス（分配金再投資ベース）は、2.43%の上昇となりました。なお、第15期の米国株式市場は、S & P 500種株価指数で-2.04%と下落する結果となりました。為替市場では、米ドルは対円で前期末より下落しました。

【第16期】

(2010年7月23日～2011年1月20日 期末基準価額：1,297円 期中にお支払いした分配金：0円)

本ファンドは、主として米国株式の買い（ロング）・ポジションによる運用を行い、外貨建資産については原則として為替ヘッジを行っていません。本ファンドは期を通じて「ゴールドマン・サックス米国株式マーケット・ニュートラル・ファンド」の組入比率を高位に保ちました。結果、当期のパフォーマンス（分配金再投資ベース）は、18.45%の上昇となりました。なお、第16期の米国株式市場は、S & P 500種株価指数で+17.06%と上昇する結果となりました。為替市場では、米ドルは対円で前期末より下落しました。

【第17期】

(2011年1月21日～2011年7月21日 期末基準価額：1,338円 期中にお支払いした分配金：0円)

本ファンドは、主として米国株式の買い（ロング）・ポジションによる運用を行い、外貨建資産については原則として為替ヘッジを行っていません。本ファンドは期を通じて「ゴールドマン・サックス米国株式マーケット・ニュートラル・ファンド」の組入比率を高位に保ちました。結果、当期のパフォーマンス（分配金再投資ベース）は、3.16%の上昇となりました。なお、第17期の米国株式市場は、S & P 500種株価指数で+4.96%と上昇する結果となりました。為替市場では、米ドルは対円で前期末より下落しました。

【第18期】

(2011年7月22日～2012年1月20日 期末基準価額：1,081円 期中にお支払いした分配金：0円)

本ファンドは、主として米国株式の買い（ロング）・ポジションによる運用を行い、外貨建資産については原則として為替ヘッジを行っていません。本ファンドは期を通じて「ゴールドマン・サックス米国株式マーケット・ニュートラル・ファンド」の組入比率を高位に保ちました。結果、当期のパフォーマンス（分配金再投資ベース）は、19.21%の下落となりました。なお、第18期の米国株式市場は、S & P 500種株価指数で-2.11%と下落する結果となりました。為替市場では、米ドルは対円で前期末より下落しました。

【第19期】

(2012年1月21日～2012年7月20日 期末基準価額：1,128円 期中にお支払いした分配金：0円)

本ファンドは、主として米国株式の買い（ロング）・ポジションによる運用を行い、外貨建資産については原則として為替ヘッジを行っていません。本ファンドは期を通じて「ゴールドマン・サックス米国株式マーケット・ニュートラル・ファンド」の組入比率を高位に保ちました。結果、当期のパフォーマンス（分配金再投資ベース）は、4.35%の上昇となりました。なお、第19期の米国株式市場は、S & P 500種株価指数で+3.59%と上昇する結果となりました。為替市場では、米ドルは対円で前期末より上昇しました。

【第20期】

(2012年7月21日～2013年1月23日 期末基準価額：1,297円 期中にお支払いした分配金：0円)

本ファンドは、主として米国株式の買い（ロング）・ポジションによる運用を行い、外貨建資産については原則として為替ヘッジを行っていません。本ファンドは期を通じて「ゴールドマン・サックス 米国株式マーケット・ニュートラル・ファンド」の組入比率を高位に保ちました。結果、当期のパフォーマンス（分配金再投資ベース）は、14.98%の上昇となりました。なお、第20期の米国株式市場は、S & P 500種株価指数で+9.70%と上昇する結果となりました。為替市場では、米ドルは対円で前期末より上昇しました。

【第21期】

(2013年1月24日～2013年7月22日 期末基準価額：1,501円 期中にお支払いした分配金：0円)

本ファンドは、主として米国株式の買い（ロング）・ポジションによる運用を行い、外貨建資産については原則として為替ヘッジを行っていません。本ファンドは期を通じて「ゴールドマン・サックス 米国株式マーケット・ニュートラル・ファンド」の組入比率を高位に保ちました。結果、当期のパフォーマンス（分配金再投資ベース）は、15.73%の上昇となりました。なお、第21期の米国株式市場は、S & P 500種株価指数で+13.43%と上昇する結果となりました。為替市場では、米ドルは対円で前期末より上昇しました。

【第22期】

(2013年7月23日～2014年1月23日 期末基準価額：1,090円 期中にお支払いした分配金：685円)

本ファンドは、第13期以降米国株式マーケット・ニュートラル戦略運用を終了し、外貨建資産についての為替ヘッジを中止した上で、主として米国株式の買い（ロング）・ポジションによる運用を行っていましたが、資産返還請求にかかる法的手続きの結果、組入れファンドの保有資産は主にリーマン・ブラザーズ・インターナショナル（ヨーロッパ）（以下、「LBIE」といいます。）からの未収金として管理が行われており、米国株式関連の保有はございません。結果、当期のパフォーマンス（分配金再投資ベース）は、18.25%の上昇となりました。為替市場では、米ドルは対円で前期末より上昇しました。

【第23期】

(2014年1月24日～2014年7月23日 期末基準価額：70円 期中にお支払いした分配金：1,090円)

本ファンドは期を通じて「ゴールドマン・サックス 米国株式マーケット・ニュートラル・ファンド」の組入比率を高位に保ちました。組入れファンドの保有資産は主にLBIEからの未収金として管理が行われており、米国株式関連の保有はございません。結果、当期のパフォーマンス（分配金再投資ベース）は、6.42%の上昇となりました。為替市場では、米ドルは対円で前期末より下落しました。

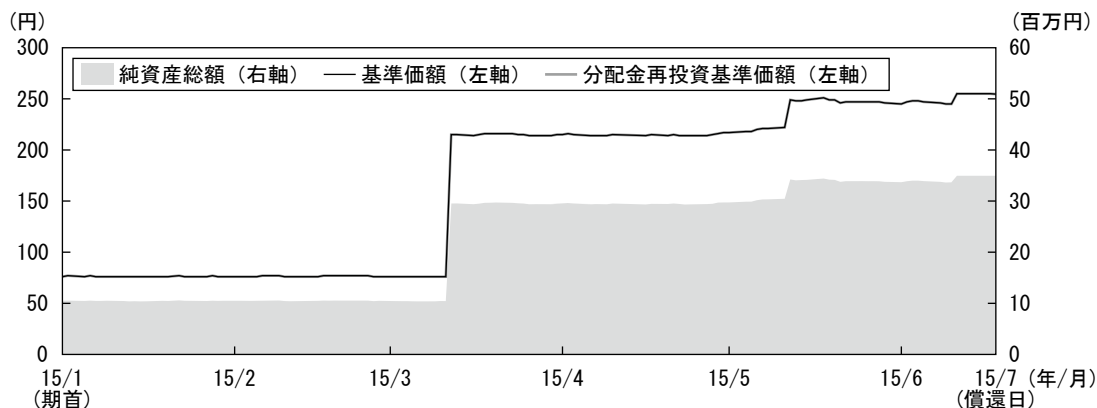
【第24期】

(2014年7月24日～2015年1月22日 期末基準価額：76円 期中にお支払いした分配金：0円)

本ファンドは期を通じて「ゴールドマン・サックス 米国株式マーケット・ニュートラル・ファンド」の組入比率を高位に保ちました。組入れファンドの保有資産は主にL B I Eからの未収金として管理が行われており、米国株式関連の保有はございません。結果、当期のパフォーマンス（分配金再投資ベース）は、8.57%の上昇となりました。為替市場では、米ドルは対円で前期末より上昇しました。

当期の運用経過

■基準価額等の推移について（2015年1月23日～2015年7月9日）



第25期首：76円

償還日：254円56銭

（期中にお支払いした分配金：0円）

騰落率：+234.95%（分配金再投資ベース）

- （注1）本ファンドの値動きと比較する適切な指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定していません。
- （注2）分配金再投資基準価額は、収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- （注3）実際のファンドにおいては、分配金を再投資することはできないため、お客さまの損益の状況を示すものではない点にご留意ください。
- （注4）分配金再投資基準価額は、期首の基準価額を起点として指数化しています。

■基準価額の主な変動要因

本ファンドの基準価額は、期首の76円から178円56銭上昇し、償還日には254円56銭となりました。

上昇要因

ゴールドマン・サックス 米国株式マーケット・ニュートラル・ファンドが上昇したことが基準価額の上昇要因となりました。また、米ドルが対円で上昇したことなども、基準価額の上昇要因となりました。

下落要因

運用上、特に記載すべき点はありません。

■組入れファンドの当期中の騰落率（分配金再投資、円換算ベース）

ファンド名	騰落率
アイルランド籍外国投資信託（契約型） ゴールドマン・サックス 米国株式マーケット・ニュートラル・ファンド	285.57%

（注）純資産価格の騰落率は収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

■投資環境について

＜為替市場＞

為替市場では、米ドルは、期初から概ねレンジ圏での推移となりましたが、期末にかけて、米雇用関連統計や住宅指標などの経済指標が堅調な結果となり、F R B（米連邦準備制度理事会）による年内利上げ観測が高まったことなどを背景に、対円で上昇しました。

■運用状況

＜アイルランド籍外国投資信託（契約型）ゴールドマン・サックス 米国株式マーケット・ニュートラル・ファンド（以下、「組入れファンド」といいます。）＞

本ファンドは、第13計算期間以降米国株式マーケット・ニュートラル戦略運用を終了し、外貨建資産についての為替ヘッジを中止した上で、主として米国株式の買い（ロング）・ポジションによる運用を行っていましたが、資産返還請求にかかる法的手続きの結果、当期中も引き続き、組入れファンドの保有資産は主にL B I Eからの未収金として管理が行われており、米国株式関連の保有資産はございませんでした。

2015年3月16日にL B I Eより資産返還請求における「請求額」の配当が行われる旨の通知があり、その情報を反映した結果、組入れファンドの純資産価格は大きく上昇しました。これに基づき算出された本ファンドの基準価額（1万口当たり）は、4月2日現在、215円となり、前日比+139円となりました。また、2015年5月29日にL B I Eより資産返還請求における「請求額」の配当にかかる通知により配当比率の上方修正があり、その情報を反映した結果、組入れファンドの純資産価格は上昇しました。これに基づき算出された本ファンドの基準価額（1万口当たり）は、6月2日現在、249円となり、前日比+27円となりました。その後、L B I Eより最終の配当が行われ、組入れファンドが換金可能となり、本ファンドは信託を終了させていただき運びとなりました。

＜本ファンド＞

本ファンドは期を通じて主要投資対象である組入れファンドの組入れを継続しましたが、組入れファンドが換金可能となり、2015年7月9日の繰り上げ償還に向けて、現金化を行いました。

■ベンチマークとの差異について

本ファンドの値動きと比較する適切な指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定していません。

以上のような運用の結果、信託期間終了時における償還価額は、254円56銭となりました。

本ファンドは、信託約款の規定に基づき、2015年7月9日をもちまして繰上償還させていただきとなりました。

本ファンドを長らく保有頂きました受益者の皆様のご愛顧に感謝いたします。

本ファンドのデータ

■本ファンドの組入資産の内容（2015年7月9日現在）

○組入れファンド

組入れはございません。

○資産別配分



その他現金等
100.0%

○国別配分



その他現金等
100.0%

○通貨別配分



日本円
100.0%

（注）上記の比率は全て本ファンドの純資産総額に対する割合です。

■組入上位ファンドの概要

組入れはございません。

■ 1 万口当たりの費用明細

項目	当期		項目の概要
	2015年1月23日～2015年7月9日		
	金額	比率	
信託報酬 (受託会社)	0円 (0)	0.010% (0.010)	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 ファンドの財産の管理、投信会社からの指図の実行等の対価
その他費用 (保管費用) (その他)	0 (0) (0)	0.034 (0.009) (0.025)	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数 海外資産等の海外保管銀行等に支払う保管・送金・受渡に係る費用 法律顧問・税務顧問への報酬、印刷費用、郵送費用、公告費用、格付費用、証拠金利息の調整金額、支払外国税等
合計	0	0.044	
期中の平均基準価額は151円です。			

期中の平均基準価額は151円です。

(注1) 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。但し、各項目の費用は、本ファンドが組入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）が支払った費用を含みません。

(注2) 金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注3) 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

■ 売買及び取引の状況（2015年1月23日から2015年7月9日まで）

投資信託証券

銘柄名		買付		売付	
		口数	金額	口数	金額
外国	ゴールドマン・サックス 米国株式 マーケット・ニュートラル・ ファンド A S クラス	口 —	千米ドル —	口 129,653	千米ドル 264

(注) 金額は受渡し代金。

■ 利害関係人との取引状況等（2015年1月23日から2015年7月9日まで）

利害関係人との取引はありません。

(注) 利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

■ 組入資産の明細（2015年7月9日現在）

償還日における有価証券の組入れはありません。

■投資信託財産の構成

2015年7月9日現在

項 目	償 還 日	
	評 価 額	比 率
コ ー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他	千円 34,952	% 100.0
投 資 信 託 財 産 総 額	34,952	100.0

■資産、負債、元本及び償還価額の状況

項 目	償 還 日
	2015年7月9日
(A) 資 産	34,952,906円
コ ー ル ・ ロ ー ン 等	34,952,887
未 収 利 息	19
(B) 負 債	7,426
未 払 信 託 報 酬	2,226
そ の 他 未 払 費 用	5,200
(C) 純 資 産 総 額(A－B)	34,945,480
元 本	1,372,768,179
償 還 差 損 金	△1,337,822,699
(D) 受 益 権 総 口 数	1,372,768,179口
1万口当たり償還価額(C／D)	254円56銭

■損益の状況

項 目	当 期
	自 2015年1月23日 至 2015年7月9日
(A) 配 当 等 収 益	237円
受 取 利 息	237
(B) 有 価 証 券 売 買 損 益	24,462,501
売 買 益	24,462,501
(C) 信 託 報 酬 等	△ 9,293
(D) 当 期 損 益 金(A＋B＋C)	24,453,445
(E) 前 期 繰 越 損 益 金	△1,365,108,696
(F) 追 加 信 託 差 損 益 金	2,832,552
(配 当 等 相 当 額)	(977,526)
(売 買 損 益 相 当 額)	(1,855,026)
償 還 差 損 金(D＋E＋F)	△1,337,822,699

(注1) 損益の状況の中で(C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注2) 損益の状況の中で(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差引いた差額分をいいます。

(注3) 期首元本額は1,372,768,179円、当作成期間中において、追加設定元本額は0円、同解約元本額は0円です。

■投資信託財産運用総括表

信託期間	投資信託契約締結日	2003 年 8 月 29 日		投資信託契約終了時の状況	
	投資信託契約終了日	2015 年 7 月 9 日		資産総額	34,952,906円
区分	投資信託契約締結当初	投資信託契約終了時	差引増減または追加信託	負債総額	7,426円
受益権口数	3,649,549,421口	1,372,768,179口	△2,276,781,242口	純資産総額	34,945,480円
				受益権口数	1,372,768,179口
元本額	3,649,549,421円	1,372,768,179円	△2,276,781,242円	1万口当たり償還金	254.56円
毎計算期末の状況					
計算期	元本額	純資産総額	基準価額	1万口当たり分配金	
				金額	分配率
第1期	5,927,890,220円	6,024,821,534円	10,164円	0円	0.0000%
第2期	5,813,742,826	5,868,625,723	10,094	100	1.0000
第3期	5,567,488,657	5,528,788,342	9,930	0	0.0000
第4期	5,174,328,386	5,199,971,485	10,050	0	0.0000
第5期	4,266,032,798	4,394,891,683	10,302	100	1.0000
第6期	3,110,517,072	3,213,568,018	10,331	100	1.0000
第7期	2,686,247,094	2,688,487,267	10,008	0	0.0000
第8期	2,379,854,427	2,226,265,386	9,355	0	0.0000
第9期	1,976,352,446	1,676,075,081	8,481	0	0.0000
第10期	1,729,358,674	1,543,650,556	8,926	0	0.0000
第11期	1,550,907,119	1,331,706,346	8,587	0	0.0000
第12期	1,372,768,179	106,142,812	773	7,850	78.5000
第13期	1,372,768,179	132,578,907	966	0	0.0000
第14期	1,372,768,179	146,720,529	1,069	0	0.0000
第15期	1,372,768,179	150,362,992	1,095	0	0.0000
第16期	1,372,768,179	178,050,475	1,297	0	0.0000
第17期	1,372,768,179	183,627,858	1,338	0	0.0000
第18期	1,372,768,179	148,346,014	1,081	0	0.0000
第19期	1,372,768,179	154,797,922	1,128	0	0.0000
第20期	1,372,768,179	178,115,735	1,297	0	0.0000
第21期	1,372,768,179	206,101,803	1,501	0	0.0000
第22期	1,372,768,179	149,581,514	1,090	685	6.8500
第23期	1,372,768,179	9,599,529	70	1,090	10.9000
第24期	1,372,768,179	10,492,035	76	0	0.0000

■償還金のお知らせ

1万口当たり償還金	254円56銭
-----------	---------

◇個人の受益者については、償還金が個別元本を上回る場合、上回る部分が課税対象となります。

◇税率は、個人の受益者については原則20.315%（所得税15.315%、地方税5%）です。

◇税法が改正された場合等には、上記内容が変更になる場合もあります。